

## 令和3年度九州地区大学等技術研究協議会 議事要旨

開催日時 令和4年3月17日(木) 15:00~16:05

開催形式 オンライン (Zoom)

議長 中村喜寛(鹿児島大学) 書記 尾上昌平(鹿児島大学)

出席者 生田竜也、村上 幸治、大杉信隆(九州大学)、若山登、川原忠幸(九州工業大学)、島津 公紀(北九州工業高等専門学校)、堀田孝之、森田恵一(有明工業高等専門学校)、齋藤昭則、田中久治(佐賀大学)、久田英樹(長崎大学)、高橋徹、原榎稔幸、阿部功(大分大学)、上村実也、倉田大(熊本大学)、木村正寿(宮崎大学)、中村喜寛、中村達哉、尾上昌平(鹿児島大学)、藏屋英介(沖縄工業高等専門学校)

欠席者 田中宗雄(久留米工業高等専門学校)、茂木貴之(佐世保工業高等専門学校)、屋比久祐盛(琉球大学)

議事に先立ち、出席者の自己紹介及び令和元年度九州地区大学等技術研究協議会会議(メール会議)議事録の確認が行われた。

議題 1. 「実験・実習技術研究会 2020 鹿児島大学(合同開催：九州地区総合技術研究会 2020 鹿児島大学)」実施報告

令和元年度開催機関の鹿児島大学・尾上から資料に基づいて報告が行われた。対面での実施はできなかったものの、要旨をもって発表したものとみなしたことが報告され、特に異議はなく、大会は開催されたものと承認された。

2. 「九州地区総合技術研究会 2022 佐賀大学」実施報告

令和3年度開催機関の佐賀大学・齋藤氏から資料に基づいて報告が行われた。特に異議はなく、大会は開催されたものと承認された。

3. 「令和5年度九州地区総合技術研究会」の準備状況

令和5年度開催機関の大分大学・阿部氏から資料に基づいて準備状況の報告が行われた。準備に当たり、今年度オンライン開催を行った佐賀大学、令和元年度対面開催の準備を行った鹿児島大学、2023年度に機器分析技術研究会開催を予定している熊本大学から資料を提供して欲しい旨要請があり、3大学から大分大学に対して資料の引き継ぎが行われることが承認された。

4. 令和7年度以降の開催機関

令和7年度開催に立候補する機関の有無について、中村議長から確認が行われた。その後、宮崎大学、木村氏に開催要請が行われたが、学内事情により即答できない旨回答があり、令和5年度九州地区大学等技術研究協議会まで継続審議となった。

5. 協議会への参加大学・高専の状況

事務局・上村氏から、オブザーバー参加となっている九州大学に正式参加の要請があった。また、現在参加している5高専以外の高専に対して、事務局より参加の案内を行

いたい旨、提案があった。九州大学・生田氏から学内で議論の上、追って報告する旨回答があった。不参加の高専に対する呼びかけに対して、特に異議はなく承認された。ただし、熊本高専について、3キャンパスそれぞれに案内して欲しい旨、有明高専・堀田氏より注意があった。

#### 6. 協議会事務局の担当機関

中村議長から、引き続き熊本大学に事務局をお願いしたい旨要請があった。事務局・上村氏から引き続き熊本大学で請け負う旨回答があり、熊本大学に事務局を継続設置することが承認された。

#### 7. その他

##### ・連絡協議員の交代

中村議長から、連絡協議員の交代予定について各機関に問い合わせがあり、以下のとおり交代が行われる旨、各機関から回答があった。

大分大学 高橋徹氏 → 阿部功氏

長崎大学 久田英樹氏 → 近藤睦浩氏

九州工業大学 若山登氏 → 人選が決まり次第、後任より連絡予定

##### ・総合技術研究会（全国版）の開催方法

九州大学・生田氏から、資料に基づき総合技術研究会（全国版）の次期開催機関選定に苦慮している旨報告があった。原因の一つとなっている開催規模（約1,000人）を地区ごとに分科会を開催することで規模を縮小すること（～500人）、九州ブロックにおいては九州地区総合技術研究会と同時開催することが提案された。沖縄高専・藏屋氏から各ブロックで分科会が一斉に動くのか質問があり、九州大学・生田氏から詳細は詰められていないため、総合技術研究会運営協議会にて調整を行う旨回答があった。直近で500人規模の研究会準備を行った鹿児島大・尾上から、事前に予算の裏付けがあればスムーズな開催準備が可能だったとの所感が述べられた。また、沖縄高専・藏屋氏から、九州地区総合技術研究会準備の折、事前案内の日程に対して、会場予約が開催半年前にならなければできない等の問題があったことが報告された。九州大学・生田氏から予算面、会場面における課題について、総合技術研究会運営協議会に問題提起する旨コメントがあった。熊本大学・上村氏から、運営母体からの打診があれば引き受け可能な機関があることが報告され、運営母体の強化等を総合技術研究会運営協議会に提案することを検討する旨コメントがあった。

##### ・令和5年度実験・実習技術研究会について

大分大学・高橋氏より、令和5年度実験・実習技術研究会の開催機関及び日程について問い合わせがあり、事務局・上村氏から、資料を確認し次第連絡する旨回答があった。